

**令和 7 年度**

**「運営に関する計画・自己評価」  
（中間評価）**

**大阪市立榎本幼稚園**

**令和 7 年 1 1 月**

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- 本園は、鶴見区唯一の公立幼稚園であり、地域の方から大切に支えられ、見守られてきた温かい歴史ある幼稚園である。子どもたちは、明るく活発で素直な子どもが多く、幼稚園の自然環境や特色を活かした心弾ませる経験を通して自分なりに表現したり、活動の中でいろいろな人と関わったりして、小学校以降の学びにつながる力が育まれるように援助していきたい。また、そのための教員の資質向上に努める。
- 自分の心身を大切にする気持ちがもてるよう、園児の実態に合わせて規則正しい生活習慣が身につくような保健指導を行い、幼児期から命の大切さに気付いて行動できるよう防災、安全教育について指導を重ね、家庭への啓発を行う。また絵本や物語に多くふれる経験を通して心豊かに育てていきたい。
- 区役所や地域・近隣校園所と連携し、地域の教育力が子どもたちに生かせるような取組を工夫し「地域に開かれた幼稚園」を目指していきたい。園の教育内容や取組についてホームページ等を活用して園外に広く発信していく。
- 保護者の保育ニーズの変化など今般の状況から、園児数が減少してきている。榎本幼稚園の良さを生かした特色ある取組を通して、どのように園の魅力を発信していくかを大きな課題と認識し、保育内容の充実に努めていきたい。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は、防災・安全教育に積極的に取り組んでいると思いますか」の項目に肯定的な回答を90%以上にする。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活で身近な環境に関わって心を動かし、主体的に生活を楽しんでいると思いますか」の項目に肯定的な回答を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活や保健指導を通して、基本的な生活習慣が身に付いてきたと思いますか」の項目に肯定的な回答を90%以上にする。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- 保護者アンケート調査で、「お子さまは、入園・進級当初より絵本や物語に親しみの気持ちをもっていますか」の項目に肯定的な回答を90%以上にする。
- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は、ホームページや保育ドキュメント・配布物などを通して、教育内容や取組を分かりやすく発信していますか」の項目に肯定的な回答を90%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は、防災・安全教育に積極的に取り組んでいると思いますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活で身近な環境に関わって心を動かし、主体的に生活を楽しんでいると思いますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。
- 保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活や保健指導を通して、基本的な生活習慣が身に付いてきたと思いますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 学校園の年度目標

- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は、入園・進級当初より絵本や物語に親しみがもてるよう保育内容を工夫していますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。
- 保護者アンケート調査で、「幼稚園は、ホームページや配布物などを通して、教育内容や取組を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

### 【年度目標について】

### 【取組内容について】

大阪市立榎本幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b> <b>学校の年度目標</b> ○保護者アンケート調査で、「幼稚園は、防災・安全教育に積極的に取り組んでいると思いますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 安全・防災に対する意識が高まるような指導を工夫する。 <hr/> <b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回、幼児の安全意識が高まるよう学校安全計画に沿って保育内容や環境の工夫を行い、園だよりやホームページを活用して、保護者啓発をする。</li> <li>・非常変災時に備えた多様な想定避難訓練年間計画を立て、実施する。</li> <li>・毎日、園内の安全点検を行い、月1回、園舎内外の環境点検を行う。</li> </ul>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<b>【年度目標について】</b> 10月保護者アンケート調査で、「幼稚園は、防災・安全教育に積極的に取り組んでいると思いますか」の項目について「 <u>そう思う</u> 」と回答する保護者の割合は79%であった。 <b>【取組内容について】</b> ①・学校安全計画に沿って安全指導を幼児に毎月実施した。	
4月	○園内の安全な生活の仕方 ○遊具・用具の安全な遊び方・使い方 ○園庭開放時の安全な遊び方 ・園庭の遊具の使い方を全園児で実際の遊具を見ながら約束を確認した。実際に使い方を見せて知らせたことで、約束を理解する姿が見られた。
5月	○遊具・用具の安全な遊び方・使い方 ○園外保育での安全・集団で行動する時の約束 ・園外に出る前に、園内で遠足ごっこをして交通ルールや安全な歩き方の約束を確認した。園内で確認したことで、初めての園外保育でも、落ち着いて電車に乗ったり、安全に気をつけて歩いたりする姿があった。また、異年齢でペアをつくったことで、5歳児は4歳児に優しく約束を教える姿が見られた。
6月	○雨の日の安全な生活の仕方 ○プールでのきまりや約束・安全な遊び方 ○食中毒予防 ○乗り物に関する約束 ・プール遊びでの約束について、危険な行動と安全な行動を教師が実演したり、

	視覚物を用いたりして知らせた。実際の場所で知らせたことで、幼児自らが約束を守ることを意識する様子があり、その後も継続して安全に遊ぶことにつながった。
7 月	○熱中症・熱射病の予防 ○プールでのきまりや約束・安全な遊び方 ○夏季休業中の安全で楽しい過ごし方 ○誘拐の防止 ・夏季休業中の過ごし方について①早寝早起きをする②体を動かして遊ぶ③冷たいものは食べすぎず、ご飯をしっかり食べるの3点をパワーポイントや実演を交えた劇にして知らせた。保護者にも見てもらったことで、家庭でも意識して過ごしてもらうことにつながっている。
8・9 月	○生活リズムを整え、楽しく安全な生活 ○遊具・用具の安全な遊び方・使い方 ○熱中症の予防 ・2学期始業式では、1学期終業式で指導した3つの約束について今後も継続して続けられるよう、パワーポイントと劇を交えて知らせた。夏季休業明けも生活のリズムが崩れることなく幼稚園に登園する姿が見られた。
10 月	○汗の始末や着替え ○様々な遊具の安全な使い方・遊び方 ○乗り物に関する約束 ・園外保育の際に、交通ルールや車内でのマナーについて事前に指導した。安全面を意識したり、静かに落ち着いて車内で過ごす姿につながった。

・避難訓練年間計画を立て、1学期に4回、2学期（10月まで）に3回の合計7回実施した。

	想定	内容
4 月	火災 ・事務管理室から出火	放送や非常ベル、担任の指示を聞き、ハンカチで鼻と口を覆い園庭（小学校向き）で避難した。4歳児は初めての訓練だったため、5歳児が避難する様子をテラスから見学し、避難訓練について知ることができた。
5 月	火災 ・職員室から出火 ・消防立ち合い	全園児で園庭（小学校向き）に避難した。消防署の方に避難の様子を見ていただいた。また、訓練後、水消火器の練習を教職員がしたり、消防車を近くで見せてもらったりした。
6 月	地震 ・津波なし	今年度は、緊急地震速報の音を各担任が保育室で携帯電話から鳴らして訓練を行った。非常ベルとは違う音であることを知る機会となった。幼児は、担任の指示を聞き、ダンゴムシのポーズで安全姿勢をとった。揺れが収まった後、防災頭巾をかぶり、園庭（小学校向き）に避難した。
7 月	防犯 ・玄関より侵入	不審者を発見した教職員が、合言葉を知らせ、担任の指示で静かに遊戲室に避難した。訓練後、さすまたについて実演を交えて話を聞くことができた。
8 月	地震 ・引き渡し訓練	緊急地震速報を聞いた教職員が口頭で知らせる訓練を行った。園庭に避難後、引き渡し訓練のため保

		<p>護者にコドモンアプリで連絡をし、連絡を確認してから園に来てもらうようにした。非常災害時の行動について確認できる機会になった。幼児も、状況に応じた避難方法があることを知り、落ち着いて避難することにつながった。</p>
10月	<p>地震</p> <p>・津波あり(二次避難あり)</p>	<p>非常ベルの音を聞き、避難の指示を放送で聞いた。その後、津波到達が予想されるため小学校の校庭まで避難した。二次避難について幼児に知らせ、避難の指示をよく聞くことの大切さを幼児自身も感じることに繋がった。</p>
<p>どの訓練後も、すぐに各クラスで振り返りを行ったことで、5歳児は状況によって避難の仕方が違うことを理解し、自ら行動する姿が見られている。4歳児は、避難訓練に怖がらずに参加できるよう、事前に知らせたことで、落ち着いて避難する姿が見られた。</p> <p>・毎日の安全点検と園舎内外の環境点検を月1回実施した。教職員の共有、点検簿の確認と報告が抜けないう、点検時には期間を知らせ、その期間内に必ず点検を実施し担当者に報告するように徹底した。プール活動時にはプールの注水・止水などのチェックシートを活用して点検を行った。毎日の安全点検を行うことで、雨漏りに気付くことができ、安全に過ごせる環境を整えることに繋がった。</p>		
次学期への改善点		
<p>・安全指導について、保護者啓発をする工夫を行うことが必要である。(園だよりに学校安全計画の目標を載せる、ホームページの活用、歩こうデーの指導内容充実 など)</p> <p>・月1回の園舎内外の環境点検を期限までに実施し、不備があればすぐに環境整備ができるようにする。</p>		

大阪市立榎本幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> <b>学校の年度目標</b> ○保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活で身近な環境に関わって心を動かし、主体的に生活を楽しんでいると思いますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 （カリキュラム改革関連） ○保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活や保健指導を通して、基本的な生活習慣が身に付いてきたと思いますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 （カリキュラム改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】</b> 就学前教育カリキュラムを活用し、教員の資質向上を図る。	A
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践記録の検討会や園内研究保育を全教員で行う。</li> <li>・学期に1回以上、各教員が研究会や研修会に参加する。</li> <li>・年6回以上、近隣校園所との連携を実施し、互いの教育内容について学ぶ機会をもつ。</li> <li>・週に1回以上、就学前教育カリキュラムを活用し、幼児の実態に沿った教材研究を工夫する。</li> </ul>	
<b>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> 幼児が主体的に活動するための保育環境や保育内容を工夫する。	A
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼育栽培年間計画を立て、週1回、生き物や自然にふれ、伸び伸びと表現活動を楽しむための環境の見直しを行う。</li> <li>・週1回以上、異年齢の友達とのふれあいを楽しめるように、交流や活動の機会をつくる。</li> </ul>	
<b>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b> 幼児の規則正しい生活習慣が身に付くよう、発達段階に応じた指導を実施する。	C
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回以上、幼児の実態に即した保健指導を行う。</li> <li>・月2回以上、幼児の実態や指導内容を、保健だよりやドキュメント、ホームページなどを用いて保護者に啓発する。</li> <li>・学期に1回以上、幼児の実態や課題についてパワーポイントを用いて保護者に啓発する。</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

10月保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活で身近な環境に関わって心を動かし、主体的に生活を楽しんでいると思いますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合は84%であった。

【取組内容について】

- ①・10月末までに第2ブロック研究部の研究主題である「自分の思いを表現する楽しさを味わう幼児を育てる一かいたり、つくったりする中で一」を基に、実践記録の検討会を2回実施した。園内研究保育を1学期に4回、10月末までに計5回実施し、全教員で計画的に実施できている。

実施月	○ねらい
4月	(養護教諭) ○手洗いの大切さを再確認し、丁寧にしようとする
6月	(養護教諭) ○体の部位の名前を知り、自分の体に関心をもつ ○プライベートパーツを知り、自分の体を大切にしようとする気持ちをもつ ○プライベートパーツを守る方法を知る
6月	(4歳児担任) ○自分なりのイメージの中で、ローラーでの活動を楽しむ ○色の混ざりやローラーでできる模様、線の面白さなどを楽しみながら、参加する
7月	(支援担当教諭) ○パネルシアターや紙芝居づくりを通してお話に興味をもつ
10月	(5歳児担任) ○大きい布に友達とイメージを共有しながら、伸び伸びと絵をかくことを楽しむ

園内研究保育では、各教員がねらいをもって保育案を立て、養護教諭も含めた全教員で保育を見合い、意見を出し合った。研究協議用シートを活用することで、保育を見る視点や協議する内容を明確にすることができ、互いに学び合う機会となっている。

- ・10月末までに研究会部会に3回、研究会全体会に1回、保健部会に6回、人権教育研修会に5回、専門研修に1回参加し、全教員が学期に1回以上学びの場に参加することができた。以下は各教員が自主的に申し込み参加した研修である。

実施月	研修名	・内容
4月	特支CO必修研修	・園で行っている支援について ・今年度の目標
5月	就学前教育カリキュラム出前研修	・就学前教育カリキュラムについて ・保育案の立て方、考察の書き方等
6月	資質向上研修	・事例をもとに考える、子ども理解と援助について ー子ども理解を深める記録とはー
7月	鶴見区図書推進連絡会	・地域の学校と交流して情報交換 ・幼児や児童が本に興味をもつためにどんな取り組みをしているか
	音楽研修会1	・大阪市立幼稚園音楽会に向けての取組
	絵画研修	・絵の具の溶き方やコツ ・技法（はりこ、版画等）



	特支ＣＯ必修研修	・コーディネーターの役割
8月	園長夏季研修会	・幼児教育における国の施策と自園の取組について
	主任夏季研修会	・校種間と地域連携について
	園長研修1	・園運営について
9月	子どもの健康研修会	・食べる力を育む「食育」～体験を通して考えよう～
	校園長研修	・生成ＡＩの活用を学校園に生かす
	幼小連携シナジーセミナー	・生活発表会に向けての活動について
	特別支援教育・保育研修会	・発達障害がい児の理解と支援
	生命の安全教育公開授業研修会	・大阪市立小中一貫校にて ・田島南小中一貫校の学力向上に向けた取り組み
	生命の安全教育研修	・性暴力の現状と課題～支援の現場から考える～

研究部会では動画視聴による研究保育が1回あり、分科会の中で他園の教員と意見を交わすことができ、多面的に保育を見ることにつながった。研修内容について研修に参加した教員が職員朝会で伝達する機会を設け、その後資料を回覧することで互いに資質向上を図っている。

- ・1学期に5回、2学期に3回の合計8回、近隣の保育園や小学校、高校と計画的に交流を行うことができた。

実施月	校園名	○事前準備 ・内容
5月	榎本小学校	○教員が訪問し、図書室の利用方法や時間について司書の方と打ち合わせを行う ・図書室で絵本や図鑑を読む
5月	今津小学校	・授業の様子を教職員が見学 ・特別支援学級の環境等見学
6月	いずみの保育園	○保育指導案を基に、保育園の教員と共通理解を図る ・ふれあい遊び、お店屋さんごっこ、寒天遊び等
6月	にじの木保育園	○保育園でしている体操を聞き、活動に取り入れる ・ふれあい遊び、お店屋さんごっこ等
7月	汎愛高校	○教員が訪問し、校舎内を下見したり当日の流れ等を高校の教員と共通理解を図ったりする ・園でしている遊びを体育館でする ・図書室で、高校生に絵本を読んでもらったり、好きな絵本を見つけて読んだりする
9月	榎本小学校 いずみの保育園 にじの木保育園	<b>【小学校】</b> ○時程や店等当日の内容が記載されている資料をいただき、まわる店を各クラスで検討する <b>【保育園】</b> ○小学校からいただいた資料と担当が作成した保育指導案を事前にFAXし、電話にて打ち合わせを行う ・小学校のえのもとワールド(お店ごっこ)に参加する ・活動後の振り返りを3園で行う
10月	榎本小学校	○運動会の予行の日時を聞く ・小学生がしているリレーやソーラン節を見学

	いずみの保育園	○保育指導案を基に、保育園の教員と共通理解を図る ・フルーツバスケット、玉入れ、体を動かす遊び
<p>5月に進学先の今津小学校を訪問し見学したことで、支援を要する幼児が安心して過ごせるような環境構成の工夫や小学校生活等について知ることができ、教員の学びや資質向上につながった。</p> <p>保育園との交流では、事前に教員同士の打ち合わせを行ったことで、ふれあい遊びや楽しんでいる遊びを一緒に楽しむことができた。また、繰り返し交流を積み重ねることで、名前を覚えたり同じ進学先の友達との関わりが深まったりした。3学期以降も計画し交流していきたい。</p> <p>・週に1回以上、就学前教育カリキュラム活用し、幼児に実態に沿った教材研究を工夫した。週に1度、担任間で保育について打ち合わせを行う機会を設け、学んだことを生かして立案したり考察したりし、保育に生かすことができた。また、園内研究保育の保育指導案を立案する時には、就学前教育カリキュラムを活用した。</p> <p>②・年度当初に飼育栽培年間計画を立て、週1回環境の見直しを行った。</p>		
	幼児の活動・飼育物など	
4月	<p>○飼育動物の様子を見たり触れたりする（ウサギ）</p> <p>○虫探しをしたり見たりする（ダンゴムシ・アリ・チョウチョなど）</p> <p>・保育室の間の廊下にウサギのゲージを置き、飼育したことで、進んで関わる姿が見られた。</p>	
5月	<p>○飼育動物の様子を見たり触れたり餌を与えたりする（ウサギ）</p> <p>○虫探しをしたり見たり世話をしたりする（ダンゴムシ・アリ・アオムシなど）</p> <p>・親しみを持ち、餌となる野菜を収穫して世話をしようとする姿が見られた。</p> <p>・ダンゴムシやアオムシの世話をする中で、動きを観察したり、日々の成長や変化に気付いたりし、生き物を大切にしようとする気持ちが芽生えていた。</p>	
6月	<p>○飼育動物の様子を見たり触れたり餌を与えたりする（ウサギ）</p> <p>○虫や水辺の生き物をよく見たり触ったり世話をしたりする（ダンゴムシ・アリ・アオムシ・メダカなど）</p> <p>・虫に親しみをもっている姿から、表現遊びや体操などの体を動かす遊びやかいたりつくったりする表現につながった。</p>	
7月	<p>○飼育動物の様子を見たり触れたり餌を与えたりする（ウサギ）</p> <p>○虫や水辺の生き物に親しみ、観察したり世話をしたりする（カブトムシの幼虫・メダカなど）</p> <p>・カブトムシの幼虫の飼育環境を考え整えることから幼児と一緒にしたことで、大切に世話をしようとする姿が見られた。</p>	
8・9月	<p>○飼育動物の様子を見たり触れたり餌を与えたりする（ウサギ）</p> <p>○虫を見つけ、空を飛ぶ様子を見たり、触ったり捕ったり飼育をしたりする（トンボ・バッタ・カブトムシの幼虫など）</p> <p>・ウサギが亡くなったことから、生命の大切さを学び、手紙や絵をかくなど、自分なりに思いを表現する姿が見られた。</p>	
10月	<p>○飼育動物の様子を見たり触れたり餌を与えたりする（ウサギ）</p> <p>○虫を見つけ、空を飛ぶ様子を見たり、触ったり捕ったり飼育をしたりする（トンボ・バッタ・ダンゴムシなど）</p> <p>・以前はよく見かけた虫がいなくなったり、珍しい虫を見つけたりすることで、季節の変化や移り変わりに気付いていた。</p>	

季節ごとに虫や小動物を見たり触れたりすることを通して、生き物を大切にする気持ちが芽生えとともに、少しずつ関わり方も分かり、進んで世話をする姿が見られている。その中で気付いた生き物の動きの特徴や体の模様、形などを観察し、かいたり、つくったりする遊びやリズム表現遊びなどを通して、伸び伸びと表現活動を楽しむ姿につながった。また、夏休みにウサギが亡くなったことで、身近な生き物の死から生命の大切さを学んだ。保育室前廊下に写真を掲示したことで、手紙や絵をかいて飾ったり、教師や友達とウサギの話をしたりする姿が見られた。

#### 栽培計画

	野菜、果物 など	幼児の姿、活動内容など
春 夏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ えのもとの森 畑（３月～） → ジャガイモ</li> <li>・ 親子苗植え（５月） → トマト、ナス、ピーマン、オクラ</li> <li>・ 園庭花壇（５月） → トウモロコシ、バジル、小玉スイカ、大玉トマト、サツマイモ</li> <li>・ 園庭プランター（５月） → インゲン、キュウリ、ゴーヤ</li> <li>・ 実の成る木 など（５～７月） → サクランボ、イチゴ、ビワ、ブラックベリー、ブドウ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ジャガイモの収穫をした際に、色や形に興味をもち、観察する姿が見られた。たくさん収穫できたことから、大きさで分別した。教師と一緒にたくさんの数を数える経験をした。</li> <li>○ 親子で夏野菜の苗を植えたり、教師や友達と一緒に花壇やプランターに植えたりし、継続して世話をする中で苗の生長や実の成る様子を観察した。収穫を楽しむとともに、七夕飾り製作でも夏野菜を題材にしてクレパスの塗り込みや墨絵での表現を楽しんだ。</li> <li>○ 園内にある果物を収穫したり、観察したり、触って感触を楽しんだりした。収穫物をテーマにした体操や仲良し遊びをしたり、特徴を活かした製作をしたりと、様々な表現活動につながった。</li> </ul>
	花	
	パンジー、ビオラ、千日紅、サルビア、マリーゴールド、ペチュニア、朝顔、ヒマワリ、綿 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 色とりどりの花を見て楽しむだけでなく、花を摘んでごっこ遊びに使ったり、色水遊びで色の美しさを感じたりして、園内の自然に触れて遊ぶことを楽しんだ。</li> </ul>
秋 冬	野菜、果物 など	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親子苗植え（１０月） → ブロッコリー、水菜、カリフラワー</li> <li>・ えのもとの森 畑（１０月） → カブ、大根、ラディッシュ</li> <li>・ 園庭花壇（１０月） → サニーレタス、ハウレンソウ</li> <li>・ 園庭プランター（１０月） → ネギ、芽キャベツ、イチゴ</li> <li>・ 実の成る木 など → ブドウ、柿、ヒメリンゴ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 親子で植えた冬野菜の世話を通して生長を楽しみにした。野菜の絵をかいた札をつくって、自分の植木鉢の目印とした。</li> <li>○ 野菜によって種の色や形、大きさが違うことに気づき、自分なりの言葉で友達に伝えようとする姿があった。</li> <li>○ 実の成る木を観察する中で葉や実の変化に気付いたり、落ちた実を拾ってごちそうづくりに使ったりしている。</li> <li>○ 収穫した時には、絵をかいたり、実を保存して製作に活用したりして、表現活動に活かしている。</li> </ul>

	花	
	クロッカス、ヒヤシンス（水耕栽培） チューリップ、ムスカリ、ノースポール、 ビオラ、パンジー など	○初めての水耕栽培で、球根の形や、根 が伸びていく様子を観察して楽しむ姿 がある。

栽培物については、教職員でどこに何を植えるとよいかを改めて考え、季節や幼児の実態、活動のねらい等に合わせて苗や種を購入した。春から夏にかけては、園内に植えられるよう考えて環境を整えたことで、幼児にとっても教職員にとってもより身近に感じられ、自ら進んで世話をしたり生長を見守ったりする姿が見られた。秋から冬にかけては、えのものと森の畑も活用し、広い場の草抜きや土づくりから幼児と一緒にいった。種から植えることで、苗や葉の形の違いだけでなく、種もいろいろな色や形があることに気付き、大切に植える姿があった。継続して世話をする中で、野菜の生長や変化について気付いたことを自分なりに表現できるよう活動を工夫していきたい。

- ・週1回以上、未就園児や異年齢の友達との触れ合いを楽しめるよう、交流や活動の機会をつくった。未就園児活動「ふれあい仲良しデー」が毎週月曜日にあり、季節に合った活動を考え交流した。

実施月	活動内容と幼児の姿
4月	固定遊具や砂場、サーキット遊びを通して、体を動かす遊びを一緒に楽しんだ。
5月	園庭の草花を使ってごっこ遊びをする中で、花を手渡したり一緒に飾り付けをしたりして自然と関わる姿があった。
6月	水遊びや泥んこ遊びで感触を楽しんだり、雨の日には保育室での遊びに誘ってお店屋さんごっこや絵をかくなどを通してふれあいを楽しんだ。
7月	夏まつりのお客さんとして遊びに来てもらい、やり取りを楽しんだり、遊び方を知らせたりして、自ら関わって遊ぶ様子が見られた。
9月	園庭で運動会ごっこの遊具を使って遊んだり、室内でお店屋さんごっこをしたりする中で、優しく声をかけて進んで関わる姿が見られた。
10月	玉入れやサーキット遊びなど、運動会でした遊びを楽しむ中で、遊び方を知らせたり、一緒に体を動かして遊ぶ姿があった。

日々の保育の中で楽しんでいる遊びを活かし交流することで、幼児も安心して遊ぶことができ、未就園児に遊び方を知らせたり誘ったりして関わろうとする姿が見られた。満3歳児未就園児活動「ちゅーりっぷクラブ」とも積極的に交流する機会がもてるよう、教職員間で声をかけ合い、季節の体操を知らせたり、表現遊びを一緒にしたりした。交流する中で幼児同士も自然と声をかけたり一緒に遊んだりして親しみをもっている。異年齢の友達との関わりについては、担任間で打ち合わせを行い、幼児の実態に合わせて活動内容を工夫した。

実施月	活動内容と幼児の姿
4月	・5歳児が4歳児の身支度を手伝いに来てくれたことで、4歳児は少しずつ園生活に慣れ安心して過ごすようになり、5歳児は優しく関わる姿が見られた。
5月	・園外保育の事前活動としてピクニックごっこを一緒にし、手をつないで歩く友達に親しみをもったり、みんなで弁当を食べることや遊ぶことに期待をもったりする姿があった。
6月	・園庭で遊ぶ中で存分に体を動かしながら水や泥の感触を味わい、同じ場で遊ぶことで、遊び方や気付きを共有していた。・自然な関わりが増え、5歳児への

	憧れの気持ちや、4歳児への優しさの気持ちが育った。
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同でプール遊びを楽しみ、5歳児の姿に刺激を受けて4歳児もいろいろな遊びに挑戦することができた。</li> <li>・各保育室で楽しんでいるお店屋さんごっこを一緒に楽しむ中で、やり取りを喜び、お互いの店に並んでいる商品に興味をもったり刺激を受けたりしていた。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全園児で行う運動会の演技を通して、5歳児の姿から刺激を受けて4歳児の体の動きが変わったり、互いに見合って演技や競技を応援することで、さらに親しみや憧れの気持ちが育っていた。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会が終わってからも、異年齢でリレー遊びを楽しんだ。5歳児が優しく約束を知らせ、4歳児はそれを守って遊ぼうとする姿があった。</li> <li>・5歳児のチャレンジ遊びに刺激を受け、4歳児もフラフープや縄、鉄棒、一本歯下駄などのいろいろな遊具に挑戦する姿が見られるようになった。</li> <li>・5歳児の音楽会ごっこを4歳児が聞きに行き、歌声を聞いたり、手遊び歌を楽しんだりし、感じたことを自分なりの言葉で伝えようとしたりする姿があった。5歳児にとっては、聞いてもらう喜びを感じ、本番への期待につながった。</li> </ul>

また、行事関係の交流以外でも、季節の体操や仲良し遊びを知らせ合い、保育内容を工夫し交流をしている。

#### 【年度目標について】

10月保護者アンケート調査で、「お子さまは、園生活や保健指導を通して、基本的な生活習慣が身に付いてきたと思いますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合は68%であった。

#### 【取組内容について】

- ③・年度当初に就学前カリキュラムを参考に年間計画を立て、月1回以上、幼児の実態に即した保健指導を行った。養護教諭が行った指導内容は以下の通りである。

4月－手洗い・うがい	5月－早寝・早起き	トイレの使い方
6月－熱中症・暑さ指数	生命の安全教育（プライベートパーツ）	
7月－歯と口の健康	9月－けがの予防	
10月－正しい姿勢（5歳児）食育（4歳児）		

保健指導の内容や教材は、幼児が分かりやすいように年齢別に作成・実施している。また、5歳児は自分の体に関心がもてるよう発育測定時に体のパーツについて役割や大切さを1つずつ知らせたり、規則正しい生活習慣が身に付くよう2週間の早寝早起き朝ごはんカレンダーを2回実施したりして、継続的に指導を行っている。4歳児の食育の保健指導は、三色食品群（赤・黄・緑）について視覚物を使ってバランスよく食べる大切さを知らせた。また、5歳児の弁当の写真を見せたり、保健室前に教材を掲示したりしたことで、指導後は自分の弁当を見て三色食品群がバランスよく入っているか確認している姿が見られた。保健指導を実施する前には、担任や教職員に指導内容を共通理解することで指導後の連携につなげることができた。また今年度は、養護教諭が生命の安全教育についてパワーポイントを使って教職員研修を行った。

- ・今年度は歯科園医の衛生士が幼児に歯磨き指導を行ったことにより、指導後の園での歯磨き時では歯ブラシの持ち方や磨く場所を幼児から教師に確認することが増え、歯磨きへの関心が高まった。また、地域の歯科医が幼児期の歯と口の健康について保護者講演会を行った。むし歯の予防や咀嚼について専門的なことを、理解しやすく知らせてもらえてとてもよかったと保護者から感想があった。

- ・保健指導の内容を毎月ホームページに掲載したり、画用紙1枚分のドキュメントを作成したりして保護者啓発を丁寧に行ったことにより、指導内容や幼児の姿をより具体的に伝えることができた。

#### 次学期への改善点

- ①・自主的に参加する研修会に積極的に参加することができるよう、研修会の案内を回覧する際に声をかけ、資質向上を図る。
  - ・近隣校園所との連携を図り、互いに行き来しながら交流を進める。(保育園交流、小学校との連携など)
  - ・今後も幼児の実態に合わせて興味や関心に沿った教材研究を行い、教員の保育力を高め保育に生かしていく。(毎週の保育打ち合わせ、就学前教育カリキュラムの活用など)
- ②・季節に合わせた飼育栽培の環境を整え、世話や観察をする中での出会いを大切にし、秋冬ならではの経験ができるよう活動内容を工夫する。(チョウチョウの卵の観察、越冬するための飼育方法を考えるなど)
  - ・栽培物の世話をする中で日々の生長を観察し、タイミングを逃さずに収穫したり表現活動につなげたりできるように工夫する。(葉の色の変化に気付く、収穫したものの絵をかいたり製作したりするなど)
  - ・異年齢の友達と自然に関わってふれあいを楽しめるように環境や保育内容を見直す。
- ③・保健指導の内容や幼児の姿についての保護者啓発方法を工夫する。

大阪市立榎本幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> <b>学校の年度目標</b> ○保護者アンケート調査で、「幼稚園は、入園・進級当初より絵本や物語に親しみをもてるよう保育内容を工夫していますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連） ○保護者アンケート調査で、「幼稚園は、ホームページや配布物などを通して、教育内容や取組を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向8 生涯学習の支援】 幼児が絵本やお話に興味・関心をもてるような環境や取組を工夫する。		C
指標 ・学期に1回、幼児が絵本やお話に興味・関心をもつことができるよう、保育内容を工夫し環境を整える。 ・毎月、保護者も絵本やお話に興味・関心をもつことができるよう、取組を工夫する。 ・年3回以上、関係機関と連携したり外部機関を活用したりして、絵本に親しむ機会を設ける。		
取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 地域に開かれた幼稚園として、教育内容や取組・幼児の育ちなどを、広く発信し、保護者や地域と連携・協働していく。		A
指標 ・週2回以上、幼稚園の教育活動をホームページに更新する。 ・年10回以上、子どもの育ちや教師の教育的意図をもった働きかけなどについて、手紙や降園連絡、保護者会などで、分かりやすく保護者に伝える機会をもつ。 ・年10回以上、地域や区役所等の関係機関と連携を図り、幼児の多様な体験につなげる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標について】 10月保護者アンケート調査で、「幼稚園は、入園・進級当初より絵本や物語に親しみをもてるよう保育内容を工夫していますか」の項目について「 <u>そう思う</u> 」と回答する保護者の割合は <u>75%であった。</u>		

### 【取組内容について】

- ①・10月末までに5回以上絵本やお話に興味・関心がもてるよう保育内容を工夫し環境を整えた。月刊絵本を各クラスで読み聞かせをし、付録は一緒に取り組む時間を設けたことで季節のお話に興味をもつきっかけになっている。また、絵本室に置いてある季節の絵本や、保健室に置いてある絵本を職員室前に移動し、幼児が手に取りやすいようにしたことで、普段手に取らない絵本にも触れることができた。また5歳児は保育室の絵本棚に、教師の好きな絵本コーナーをつくり知らせることで、「先生の好きな絵本が読みたい」と興味をもった。絵本の並べ方・置く場所、幼児への知らせ方を工夫することで、幅広く様々な絵本に親しむ機会につながっている。
- 2学期は、シリーズの絵本に興味をもち楽しむようになってきたので、シリーズを増やしていった。4歳児は遊びにつながるような絵本を選び保育室に並べていった。また担当が5歳児と一緒にパネルシアターづくりをし、お話づくりに興味もてるように取り組んだ。週末の絵本貸し出しの際に絵本の整理をし、絵本を丁寧に扱えるよう知らせた。大きな行事や初めての事を経験する時には、関連する絵本や図鑑などで知らせた。幼児自身が絵本や図鑑を使って調べる姿が見られた。教師が幼児への働きかけを変化させることで、より主体的にお話に興味をもったり、自ら調べたりする姿につながった。
- ・週に1回の絵本貸し出しの際、保護者が幼児の感想や様子を絵本カードに記入し、書いてあることを教師が幼児に読んで知らせることで、新しい絵本を知るきっかけとなった。6月の保育室帰りで教師が保護者の前で絵本の読み聞かせをしている所を見てもらった。絵本から行事に期待をもつきっかけづくりをしていることや絵本選びのポイントを保護者に知らせた。新刊の絵本をホームページにあげ周知した。保護者が絵本に親しみ興味をもつことで、幼児が絵本に触れる機会が増えると考えため、今後も更に取組を工夫していきたい。
  - ・10月末までに6回関係機関との連携を実施した。

#### 関係機関との連携や外部機関の利用

- ・榎本小学校の図書室利用
- ・鶴見区図書館利用(5歳児)
- ・こども本の森 中之島
- ・中央図書館より配本
- ・「絵本の会鶴見」による読み聞かせ
- ・汎愛高校の図書室利用、図書部による読み聞かせ

関係機関や外部機関を連携、活用することで普段とは違う雰囲気の中で絵本を楽しむことができた。

### 【年度目標について】

10月保護者アンケート調査で、「幼稚園は、ホームページや配布物などを通して、教育内容や取組を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う」と回答する保護者の割合は84%であった。

### 【取組内容について】

- ②・週2回以上、ホームページの更新をすることができた。ほぼ毎日更新していることで、在園児の保護者だけではなく、卒園児や地域の方々もホームページを見てくださっている。また、ホームページ担当の教職員だけでなく、教職員全体で協力して行ってい



ることで、様々な視点からの幼児の育ちや、園運営について発信することにつながっている。

- ・1学期に6回（始業式と終業式後の保護者会2回、各月のえのもとっこだより4回）、10月末までに（始業式後の保護者会1回、各月のえのもとっこだより2回）幼児の育ちや教師の教育的意図をもった働きかけを保護者に伝えることができた。4月から毎月、「えのもとっこだより」を作成し、幼児の育ちを写真や文章を用いて保護者に知らせている。クラスの取組だけでなく、異年齢の交流についての取組や、幼児の育ち合いについて記載していることで、幼稚園としてどのようなことを大切に保育しているのかを知らせることにつながっている。また、毎月末には保育室降園を行い、その時期に幼児が楽しんでいる歌やダンスを見てもらう機会をもち、保護者啓発を行った。1学期終業式の保護者会では、就学前教育カリキュラム概要版パンフレットを全保護者に配布し、家庭と幼稚園、地域が連携する大切さを知らせたり、パワーポイントを使って、幼児の姿から、教師の思いや幼児の育ちを伝えたりした。
- ・1学期に5回、10月末までに3回、計8回地域や区役所等の関係機関と連携を図り、幼児の多様な体験につながる活動ができた。

1 学 期	消防署訪問（5歳児）
	・5月の消防署見学（5歳児）では、火事についてビデオを見て教えてもらったり、消防車をじっくり見せてもらったりし、消防士さんに積極的に質問する姿が見られた。その後、園で絵をかいたものを手紙にして届けると、消防署の方から喜んでいただくことにつながった。
	老人会とのふれあい参加（5歳児）
	・6月の老人会とのふれあい（5歳児）では、園で歌っている歌を聞いていただいたり、一緒に手遊びをしたりしてふれあいを楽しんだ。幼児も、地域の方とのふれあいを楽しみにしており、優しく受け入れていただいたことを喜んでいた。
	交通安全教室（鶴見区役所安全協働課地域安全防犯係）
	・交通安全教室では、鶴見区役所安全協働課安全防犯係の方に来ていただき、交通ルールについて、パワーポイントや実演を交えて分かりやすく教えていただいた。その後、園外に出る機会があったので、指導していただいたことを意識する姿が見られた。
	おもちゃ花火教室（5歳児）（鶴見消防署）
	・おもちゃ花火教室（5歳児）では花火の安全な使い方を教えていただき、実際に花火の体験もできたことで、約束を守って遊ぶ姿が見られた。また、消防署訪問後にかいた絵を、消防士さんに直接見ていただき、声をかけてもらったことで、喜びを感じる姿が見られた。
	防犯指導（大阪府警本部・鶴見警察署）
	・防犯指導では、大阪府警の方に来ていただき、知らない人にはついていけないことを実演を交えて分かりやすく教えていただいた。夏季休業日前に指導していただいたことで、約束を守ろうとする気持ちをもつことができた。
2 学 期	4歳児訪問事業（鶴見区役所）
	・8月の4歳児訪問事業ではプライベートパーツについて視覚物や絵本を通して分かりやすく教えていただいた。4歳児なりにプライベートパーツとは何か、なぜ

	大切なのかを知ることにつながった。
	敬老慰安会（幼児の絵を届ける）
	・地域の皆様に日頃の感謝の気持ちを込めて幼児がかいた絵を、画用紙にまとめて手紙にし当日、会場に掲示していただいた。幼児自身が地域の方に支えられていることを知る機会となった。
	だんじり曳(今津地車保存会)
	・だんじり曳をさせていただく貴重な機会となった。幼児も地域の方と直接関わることで、地域の温かさを感じることに繋がった。
次学期への改善点	
<p>①・今後も絵本を丁寧に扱えるように、絵本棚の片付けをする際、幼児と一緒にいき、片付け方を知らせていく。</p> <p>・園庭開放中に絵本室を開放する日を設ける等、幼児がより絵本に親しみがもてるよう親子での取組を考え工夫する。</p> <p>・新鮮さや季節を感じられるよう、絵本の配置を考える。</p> <p>・引き続き関係機関との連携や外部機関を利用していき、たくさんのお話にふれたり発見につながるきっかけになったりするよう、工夫する。</p> <p>②・ホームページの内容について、教育内容をどのような表現にしたら伝わりやすいのかを考え工夫する。</p> <p>・引き続き、地域や区役所等との連携を図り、幼児の多様な体験につながる活動内容を工夫する。</p>	